

12月24日更新

日能研

節電への取り組みについて

■基本方針

日能研では、環境問題の視点から、また社会の一員としての視点からも、日能研全体で電力使用量15%削減、首都圏については25%削減を実行できるように、考え続けていきます。

資源に限りがあることを身を持って感じる、この感覚を広げていくことで、ライフスタイルや習慣、価値観や文化は大きく変化しました。どのように工夫ができるかを意識し、考え続け、実行する。そのために私たちは子ども達と共に「25%をどのように使わないか」という我慢よりも「75%をどう使おうか」という工夫に目を向け、行動してきました。

これからも、日能研はさまざまなアイデアを出し、取り組みとして実行してまいります。新しい未来をつくり続けていくために、子ども達と共に成長していきたいと考えています。

■取り組み事例

① エアコンの温度設定を15℃とします。

「空間を温かくする」という考え方から、「個人が温かくなる」という考え方へ。日能研各校では、エアコンの温度設定15℃とします。教室の環境は、サーキュレーターを導入し、積極的な換気をおこないます。また、断熱フィルムや断熱塗料などの利用により、消費電力の削減に努めます。

② 照明器具の点灯を考えて使用します。

授業をおこなう教室内の照度を学校環境衛生基準（500ルクス～700ルクス）に合わせます。その他、廊下や教室窓口等の照明につきましても、蛍光灯の使用本数の削減をおこないます。

③ 電気機器の使用を工夫します。

教室内のパソコン、コピー機等の待機電力の削減をはじめ、不必要な電気器具の撤去をおこないます。備品の電気は必要な際のみ意識して使用します。

例：冷蔵庫 →発泡スチロール箱に保冷剤を入れ代替使用

電気ポット →魔法瓶にて代替使用 など

④ ペレットストーブの導入

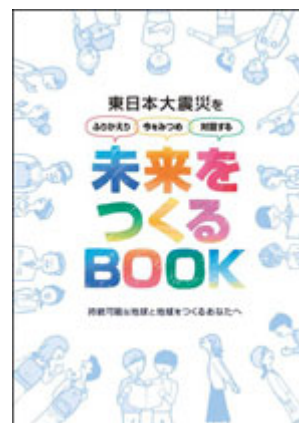
日能研新横浜本部、NTS等数か所では、エアコン使用をペレットストーブの使用に切り替えます。環境への評価が高い燃料である木質ペレットは、宮城県栗原市のものを使用しています。木質ペレットの燃焼では、樹木の成長過程で吸収したときと同量の二酸化炭素しか排出しないため、石油・石炭などの化石燃料の使用とは異なり、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えません。木質ペレット・ペレットストーブの使用は、二酸化炭素排出量についてカーボンニュートラル（二酸化炭素中立性）であること、また、間伐材や木材の製材過程で生じた廃材などを利用した再生可能なエネルギーであること、そして国内でエネルギー生産ができるようになり、資源の輸送コスト削減や輸送によって排出される二酸化炭素の削減。持続可能な森林・林業の活性化につながります。



⑤ 未来をつくるBOOK への協賛

震災をテーマにした『未来をつくるBOOK』（発行 認定NPO法人持続可能な開発のための10年推進会議）に協賛しています。今後、日能研の教室では、このテキストをテーマにしたワークショップも予定しています。

『未来をつくるBOOK』につきまして詳しくはこちらをご覧ください。
<http://www.mikuni-webshop.com/shopdetail/004001000009/>



上記以外にもさまざまな工夫をし、実行します。

今後、取り組み事例については、随時更新いたします。